

Vories
cure&care



ヴォーリス
だより

発行 毎月 1日
発行者
ヴォーリス記念病院
三ツ浪 健一
近江八幡市北之庄町492
TEL (0748) 32-5211
印刷
(有) 東呉竹堂 (ひがし印刷)

病院ホームページアドレス
<http://www.vories.or.jp/>

2018年(平成30年) 3月1日 第129号

2018年診療報酬改定からみた当院の役割

事務長 澤谷久枝



2018年度の医療・介護・障がいのトリプル改定の全貌が明らかになりました。

診療報酬改定は+0.55%、介護報酬は+0.54%のプラス改定となります。

改定にあたっての基本的な考え方は、

1. 人生100年時代を見据えた社会の実現。
2. どこに住んでいても適切な医療・介護を安心して受けられる社会の実現。
3. 制度の安定性・持続可能性の確保と医療・介護現場の新たな働き方の推進。であります。方針として、人口構造や疾病構造の変化により入院医療のニーズが多様化する中、医療機能や患者の状態に応じた評価を行うことによって医療機能の分化・強化や連携を推進し、地域に必要な医療を効果的・効率的に提供できる体制を整備することが求められています。新しい入院料は、看護職員配置や平均在院日数などの「基本的な診療にかかる評価」と重症患者割合や在宅復帰率などの「診療実績に応じた段階的な評価」の2階建ての構造になっています。

当院が担う地域密着型に求められている機能を整理してみると、①軽度の急性期患者の受け入れ(主に高齢者を中心に、肺炎や心不全、感染症など中程度の医療資源の投入が必要な患者の受け入れ)②急性期後の患者の受け入れ(高度急性期での治療を終え、在宅復帰に向けて療養が必要な患者の受け入れ)③リハビリテーションの提供(患者が退院後に自立した生活を継続できるよう、適切なりハビリテーションを提供する)④在宅復帰支援(在宅医療を手がけたり、地域の医療機関に紹介するなどして、医療必要度の高い患者が在宅で療養できる体制を整備する)⑤介護保険サービスとの連携(患者が退院後に必要な介護サービスを利用できるよう、要介護認定の申請や、介護サービス・在宅サービスについての情報を提供する)が挙げられます。緩和ケア病棟でも、状態の落ち着いた患者さんは在宅復帰されています。(復帰率23%)訪問診療・訪問看護の体制を整えていることも特徴であります。こうした取り組みは今回の改定で評価されています。また、国民の希望に応じた看取りの推進も図られ、「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」などの内容を踏まえて、患者本人と話し合い、本人・家族の意志決定を基本に、ほかの関係者との連携の上で看取りに対応することが、在宅ターミナルケア加算、訪問看護ターミナルケア療養費の要件とされるほか、療養病棟入院基本料と地域包括ケア入院料1, 3で看取りの指針を定めていることが施設基準に追加されました。

在宅復帰を促すだけでなく、その人の生活を再構築し、住み慣れた地域での社会との関わりを復活できるお手伝いができること。また、最期まで寄り添いながら関わらせて頂くことなど、当院だからこそ担える機能を、この機会に検証していきたいと考えています。来年度も地域に愛される病院で有り続けるために、職員一同、精一杯努力していく所存です。変わらぬご支援のほど、宜しくお願い致します。感謝。

☆インフルエンザを予防するために☆

1. 予防注射をしましょう。
2. うがい・手洗いはこまめに。
3. 外出するときは、マスクを着用しましょう。

院内感染対策委員会

今
月
の
聖
句

「主は平和を宣言されます。」

旧約聖書 詩編 85篇 9節

チャプレン 安部 勉



この原稿を執筆する日、テレビのニュースでアメリカ政府の軍事力増強方針の報道がありました。核兵器の削減や廃止に向かうのではなく、実践でも使用できる破壊力の小さな核兵器を開発する、と言っていました。そして「抑止力」として核兵器の重要性を訴え、より実践に向けて準備する方向にあります。

大きな戦争を経て、計り知れない犠牲と損害、人々の悲しみや怒りを幾度となく経験しながらも「正義」と「平和」のためと軍事力はより大規模になっています。そして「核兵器」には「核兵器」で抑止力を持たないと安心できない、「平和」は守れないと考える人もいます。

ユダヤの民は隣国との争いに破れた結果、多くの民が強制的にバビロンという地に移送されたことがありました。50年間、バビロンでの不自由な生活を強いられましたが、バビロンが新興国ペルシャとの争いに破れ、ユダヤの民は解放されま

した。

彼らはその喜びを神に感謝しました。彼らは奴隷となったことの「意味」を神への逆らいと受け止め、解放をもって罪赦されたことを喜びました。

彼らは希望をもって帰国しました。しかし彼らが思い描くような現実ではなく、苦難は続いたのです。失望を味わっていました。

その中で歌われた詩の一節が今月の言葉、「主は平和を宣言されます」。希望が失望に変わり人々の気持ちは落胆と諦めを覚えたことでしょう。なお詩人は「主が平和を示される」と宣言するのです。

繰り返し争いの絶えないこの世界。神の目に私たちが「罪深い」ものであることを思います。なお赦され「平和」を心にとめよ、との神の声に心向けたいと願います。



ヘルシークッキング 3月



甘酒

甘酒（酒粕）の作り方

*アルコール分があるので、お子様やアルコールが苦手な方は注意して下さい。

材料：酒粕 100g
水 500cc
砂糖 大さじ3
塩 少々
生姜 適量



作り方

1. 酒粕を前日から水に浸して馴染ませておく。
2. 鍋に溶かした酒粕と砂糖、塩、生姜を入れて温める。



甘酒は飲む点滴といわれるくらい、美容や健康に良いと最近流行しているのをご存じでしょうか？

古くは江戸時代にも飲まれていたというほど昔から飲まれて来ました。

甘酒には二種類あり、米麹からの物と酒粕から作られている物があります。

それぞれ原料が違いますがどちらも栄養は豊富です。

今回は手軽に作れる酒粕が原料のレシピをご紹介します。

酒粕は日本酒を造る際の副産物として生まれますが、三大栄養素（炭水化物・たんぱく質・脂質）をはじめとする様々な栄養を含んでいます。

ビタミンB1やB2、ナイアシン、葉酸、パントテン酸などのビタミンB群が豊富で、特にナイアシンは牛乳や卵の約20倍も含まれています。

そのほかエネルギー生産に欠かせないアミノ酸や酵母などが含まれており、現代人に不足しがちな栄養素をバランスよく補う事が可能となっています。

甘酒が苦手な方は豆乳で割るとクセが和らぎますので試してみてください。

しかし体に良いからと大量に飲むことはおすすめしません。どんな物でも飲み過ぎ、食べ過ぎは良くないので一日コップ一杯までにとどめておくようにしましょう。



ヴォーリス記念病院 創立100周年に向けて

当院は今から99年前の5月、「近江療養院」という結核療養所として開設しました。来年で100周年を迎えます。近江八幡の地で100年という月日、地域の皆さんに基督教の理念に基づき医療や介護、福祉の働きを担って来ました。来年の100周年に向けてこのコーナーでは病院に関連するトピックをご紹介します。

第12回 (最終回)

チャプレン 安部 勉

昨年の4月より連載しました「プレ100年史」も今回が最終回です。今回のテーマは「サナニュース」。

当院では入院された患者さんに毎週金曜日、「サナニュース」と題して聖書の解き明かしと「1週間の献立表」を配布しています。

聖書に関心はなくても「献立」には皆さん関心があることと思います。一度はご覧になった方もおられるかもしれません。外来にも配布用がございますのでお読みいただければ嬉しいです。

さて、サナニュースは1963年6月16日に創刊されました。当初月間紙として始まりました。当時の目次をみると「ささなみ歌会互選作品抄」「Xレイ(レントゲン)写真コンテスト全国入選」などの記事が並びます。結核療養所として患者さん同志の歌会、レントゲン写真の技術を競うことがあったなど、沢山のトピックがありました。

1964年からは「週間サナニュース」として毎週発行されるようになりました。1面は聖書の解き明かしと日曜日の礼拝の案内、礼拝式順が掲載されています。

目次を見ますと個人消息やリレーエッセイ、随筆など文芸誌のようでもあります。イラストも職員の方直筆と聞いています。

結核療養所としての文化、そしてアットホームな病院の様子をうかがい知ることができます。

この原稿を執筆している私もサナニュースの聖

書の解き明かしを担当しています。このサナニュース、2018年2月9日号が2,800号。歴史を引継ぎ今あることを誇りに思います。



サナニュース1980年1月12日号より

健康について

2病棟 大谷 恵美

健康とは身体面だけでなく精神面の健康も大切だと思います。日常生活を送る中で健康について考える機会はあまり無かったのですが、今回改めて考える機会になりました。

日々の生活を振り返ると、特別何かをするというよりは、無理なくできることを続ける事で健康を維持できていたのではないかと思います。

まず健康に欠かせない食事は、なるべく毎食野菜を食べるようにしたり、昼食は弁当を作るよう

に心掛けています。また、公共交通機関利用時はエスカレーターなどの利用を控え、階段を利用するようにしています。最近、ヨガにも通い始め心身ともにリラックスした時間を過ごす事ができています。

患者さんに心のこもったケアをできるように、自分自身も健康でいられるように日々努めていきたいと思っています。



シリーズ認知症

「認知症と食事について」

栄養科 管理栄養士 坂本陽介

認知症はその経過に伴い食事にも影響を及ぼします。その経過は認知症の原因疾患によって異なります。

アルツハイマー型認知症の場合、初期であれば、ほとんど自発的な摂食力に影響は無いですが、中期以降には注意障害や失行、失認などによる摂食困難が見られ、後期には嚥下障害も出現します。また、レビー小体型認知症の場合は、初期から認知機能の変動・幻覚・妄想・自律神経症状などの様々な症状や嚥下障害も比較的早期に出現します。これらの症状により、初期から自発的な摂食力は低下していきます。いずれの認知症の場合も、食べられない時に何が起きているのか、認知症患者の視点で真意を探求し環境を整えていくことが重要です。

例えば、空間認知障害や食具の使い方がわからず食べ始められない場合であれば、認知できる範囲に食器を置く、食具の使い方を見せる、などすれば改善するケースが多いです。このように認知症の症状を知っていれば原因を特定し

対応することができます。

しかし、これが自宅での食事ではこうであった、食事はこういうものしか食べない、というような嗜好や食習慣が含まれるケースだと複雑になります。患者側としては上手く嗜好や考えをスタッフに伝達できず、食べられないものが提供され続けるから食べない、スタッフ側としては、理由はわからないが食べない、という状況になります。今まで経験した中でこのような場合の突破口は「こういうものであれば食べていた。」とか「家ではこんな食事でした。」という情報提供でした。この情報を元に嗜好に合わせた食事に変更したり、自宅の食事に近づけたりすることで改善したケースがありました。こういうケースがある度に、日々の食事風景を観察することがいかに重要なのか痛感します。日々の業務の中で、毎日食事風景を見に行くことが難しい現状ではありますが、できるだけ時間を作り患者さんに近いところで食事を考えていきたいと思えます。

報告

がんセミナーに参加して

ホスピス 村上美香

今年度第1回目のがんセミナーが1月20日に行われました。「がんの治療と共に行われるサポータティブケア」と題して、滋賀県立総合病院リハビリテーション科科長の川上寿一先生にご講演を頂きました。

近年、生涯がんに罹患する確率は2人に1人と言われており、日本人の死亡要因の1位となっています。その中で地域の方々の意識も高くたくさんの方の参加がありました。

がん療養におけるリハビリテーションは患者さんの回復力を高め、今の能力を維持、向上させ今までと変わらない生活を取り戻すことを支援することによって、患者さんの生活の質を大切にする考えに基づいて行われます。予防的、回復的、維持的、緩和的リハビリテーションに分類され、それぞれの目的をもってリハビリが行われています。

緩和的リハビリは「余命の長さに関わらず、患者さんとその家族の要望を十分に把握した上で、その時期におけるできる限り可能な最高のADLを実現すること」を目的としています。今、当院のホスピスでも緩和的リハビリテーションが行われていますが、患者さんの希望を支える、日常生活を整えその人らしさを支える中での大きな役割を感じました。

チーム医療の中で、看護師として連携をとり、リハビリや看護それぞれが役割を果たせるようにしていきたいと思えます。



報告2

インスタントシニア体験を通して

訪問看護ステーションヴォーリズ 今井紀子

インスタントシニア体験では、高齢者の身体的機能の衰えや心理的变化を実感することが出来る。8種類の器具(①耳栓②白内障用ゴーグル③両腕関節サポーター④聞き手首おもり⑤ゴム手袋⑥利き足膝サポーター⑦左右違った足首おもり⑧杖)を装着し、チャレンジリストに従い日常行っていることを体験した。



耳栓・白内障用ゴーグルを装着することで、周囲の様子が分かりにく

く、人の気配を感じることも難しかった。今回は、院内を歩き体験した。普段、訪問している利用者の方は、長年住み慣れた家であるからこそ、段差の有無・物の位置等を熟知しているから、生活が出来ていることを実感することができた。



自分がインスタントシニア体験を行ったことで、高齢者の置かれている状況が良く分かったので、今後の関わり方に活かします。

報告3

近江兄弟社 創立113周年記念式典

経営企画室 西山洋平

今から113年前の2月2日、W.M.ヴォーリズ師がキリスト教伝道と「神の国」建設の熱き思いをもって、この近江八幡の地に降り立ちました。近江兄弟社ではこの日を「創立記念の日」として創立の志を確認する時としています。今年も2月2日、ヴォーリズ平和礼拝堂に於いて、第113回創立記念式を執り行いました。

1部の記念礼拝終了後、第2部の創立記念式では、勤続25年表彰が行われ、対象者8名の方々が表彰されました。次に各事業体の報告があり、休憩をはさみ第3部の記念講演が始まりました。今回は、元ヴォーリズ記念病院総婦長である永芳



和子氏による『ヴォーリズと近江ミッションと医療事業』と題し、ヴォーリズ氏のエピソード・回顧録の講演に多くの出席者は耳を傾けていました。

各事業体が『信・働・愛』を掲げ、今後の益々の発展と活躍を祈念致します。

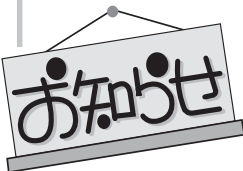


報告4 第258回 ミュージックタイム

さる20108年1月27日、「第258回 ミュージックタイム」を3病棟で開催いたしました。

前日まで大雪に見舞われ、開催を案じていましたが、山本さんご夫妻は岡山からお越し下さいました。今回で33回目の演奏でした。いつもの心暖まるピアノとフルートの音色に穏やかな時を皆さんと共に過ごしました。



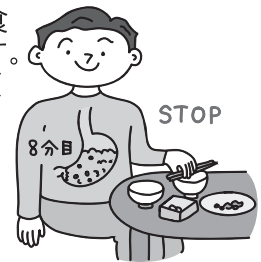


▶ 糖尿病及び生活習慣病教室のお知らせ

シリーズで木曜日に糖尿病、生活習慣病に関して、実際の食事をご用意し、病気の知識や治療法に関する教室を開きます。詳しくは管理栄養士か外来看護師あるいは担当医師にお尋ねください。

日 時 4月26日(木) 12:00~13:30 場 所 新館研修室(病院内)
講 師 管理栄養士

主治医の指示のもとに参加できますが、あらかじめお申し込みが必要です。



平成29年度ヴォーリス記念病院「がんセミナー」のご案内

～テーマ「がんと一緒に生きる」～



第3回 2018年3月17日(土)
「引き継いだいのち」患者様ご家族 田辺 恵様

時 間: いずれも午後2時～午後4時
場 所: ケアハウス信愛館(近江八幡市北之庄町492-2)
(当院ホームページのマップをご参照ください。)

定 員: 30名

お申し込み 氏名、住所、電話、参加希望人数を明記のうえ、メールまたはFAXでお申し込みください。定員に達した時点で締め切りとさせていただきます。

(申し込み後、メールまたはFAXの返信をもって参加証といたします。ご持参ください。)

【お問い合わせは】 公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院
(がんセミナー担当: 安部)

FAX: 0748-32-2152

E-mail: vories-reihaidoh@vories.or.jp

お知らせ

メディカルフィットネスセンターヴォーリス 会員募集中

あなたの健康づくりをサポート

元気な方は体づくり 病後の方は体力回復
沢山の方がご利用されています。



営業日と時間

	月	火	水	木	金	土	日	
9:30 ~ 12:00	△ 11:30 まで	市 委 託	○	△ 11:30 まで	市 委 託	---	---	利用料金 入会金 3,750円
13:30 ~ 17:00	○	○	○	○	○	---	---	
17:30 ~ 20:00	---	○	---	---	○	---	---	

定休日 : 土・日・祝日 年末年始などにMFCVが定めた休日

市委託=市から受けている委託事業 ○=会員制による実費サービス

△=当センターのデイサービス利用者の方が優先になりますが一般の会員の方も利用できます。9:30~11:30までの営業です。

休館日

土・日・祝・年末年始など または当センターが特別に定めた日

〒523-0806 近江八幡市北ノ庄町492 ヴォーリス老健センター1階
電話 0748-32-5540 ファックス 0748-32-5541

健康生活について「出前講座」のご案内

～ ヴォーリス記念病院 ～

ヴォーリス記念病院では、「地域の皆さまの健康生活に貢献できる病院」の一環として、地域に向いて『出前講座』を開催しています。皆さまが知りたい、聞きたいと思われる内容について、当院職員が講師として伺います。ぜひご利用下さい。

◆対象: 近江八幡市内の地域住民による団体・グループ、学校など

※企業、医療機関及び介護保険施設等の職場研修は実施しておりません。

◆費用: 無料です。

◆開催日時: 日、祝日を除く、9時から17時まで。

◆申し込み方法: 電話により希望日の2か月前までにご相談下さい。

開催が決定したら、正式に申込書をご提出頂きます。

業務の都合によりご希望の日時、講座に添えない場合もあります。予めご了承下さい。



お申込・お問い合わせはこちら >>> TEL: 0748-32-5211(代表)
FAX: 0748-32-2152

◎ホームページでもご覧になれます。 <http://www.vories.or.jp/>
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 経営企画室まで

患者支援センター

患者様やご家族様に住み慣れた生活の場で、安心して療養し生活を送って頂けるようサポートします!!

- ・健康保険、介護保険等の社会保障制度について
- ・在宅での生活、介護についての不安
- ・施設の入所や利用について
- ・地域の病院・開業医の皆様からの受診・入院依頼...等

お気軽にご相談ください!

TEL (0748) 32-5211 (代)
FAX (0748) 36-5412 (直)
E-mail info@vories.or.jp (代)



※センターは正面玄関入って左側にございます。